

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人長岡技術科学大学

1 全体評価

長岡技術科学大学は、主に高等専門学校から学生を受け入れ、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に貢献する大学を目指している。第3期中期目標期間においては、①未踏領域・未踏分野に挑戦する、タフなグローバル技術者の育成、②強みを持つ分野を中心に世界をリードする先進的・創造的研究や分野融合型研究の推進、③海外大学・産業界との強固なネットワークに立脚したグローバル化の推進、④地域や企業が抱える諸課題の解決や地域が必要とする人材を育成するとともに、地域を世界に繋ぐ役割を果たし、地域活性化・地方創生に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、IR推進室を中心に、過去6年間の外部資金に関するデータを分析することで大学の強みを明らかにし、戦略的に予算の重点配分を行うとともに、国際的なネットワーク形成を目的とした国際会議「STI-Gigaku」を開催し、大学院修士課程の学生と高等専門学校本科生・専攻科生が参画する共同研究の成果を英語で発表する場を設けるなど「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 豊橋技術科学大学との連携、協働による大学院修士課程の特別コースとして共同教育プログラムコース科目を2科目新設し、対面授業とe-learningを活用した授業を実施している。（ユニット「豊橋技術科学大学及び高等専門学校との連携による実践的技術者の育成と機能強化」に関する取組）
- 外国人学生の長岡技術科学大学への留学意欲を高めるため、新たに短期留学生受入プログラム（NASSYE）を整備し、学術交流協定校へのプログラム案内及び公式ホームページでの広報により応募のあった111名を選抜の上、21名を受け入れているほか、インド工科大学マドラス校（インド）と、インド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校（インド）と単位互換協定を締結し、2名の受入学生に単位を付与している。（ユニット「グローバル社会を牽引する実践的技術者育成プログラムの実施」に関する取組）
- ものづくり地域の産業活性化に貢献するため、大学と包括的連携協定を締結している地元金融機関の行員1名を大学に常駐させ、起業及び人材育成等を支援するファンド設立の準備を進めているほか、学生の起業精神を構築するため、産学連携を担当するクロスアポイントメント教員と連携した起業支援セミナーや相談会を開催し、参加した123名の学生等が投資家等の関係者と接する機会を設けている。（ユニット「産業界のニーズを踏まえた先進的・実践的・創造的研究の推進と地域社会への貢献」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 強み・特色の自己分析を踏まえた戦略的な資源配分

IR推進室を中心に、過去6年間の外部資金に関するデータを収集・分析し、特徴を視覚化するとともに、分析によって明らかになった大学の強みであるグリーンテクノロジー・制御システム・材料科学の3つの研究領域に対し、総額4,800万円の予算を戦略的に重点配分している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学生目線での構内ハザードマップの作成

学内の安全確保及び学生の学習につなげることを目的として、学内ワークスタディにおいて、構内を日常的に利用している学生目線での構内ハザードマップを作成したうえで、学内に公表している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ インターネットを活用した試験方式の導入

意欲の高い海外の学生の獲得や、受験者の経済的負担の軽減を目的として、受験者との面接や口頭試問にインターネットを活用した遠隔入試を導入しており、平成29年度入試においては3名の海外の学生を対象に当該方式による入学者選抜を実施している。

○ 大学と高等専門学校との共同研究の推進

学生が主体となって、持続可能な開発のための様々な議論を行い、更なる国際的なネットワークを形成することを目的とした国際会議「STI-Gigaku」を開催するとともに、学生の教育効果を更に高めるために、同会議において大学院修士課程の学生と高等専門学校本科生・専攻科生が参画する共同研究の成果を英語で発表する場を設けている。